

2025（令和7）年度 京都大学 入試問題 理系 第2問 解答例

*1行は約25文字（+句読点などの記号）。20字程度とすべきだと主張する人もいる。

問一

欠点が多く、付き合うのも時間の無駄と思えた、不出来で軽蔑すべき友人の存在は、「私」の同様の欠点を投影する他者の役割を担い、おかげで「私」は豊かに生きていけるということ。

問二

「私」が自身と似た欠点の多い友人の存在を人生に必要としたように、その友だちも、自身の人生を豊かにするうえで、似た欠点の多い「私」を友人としておのずと求めたということ。

問三

入院した友人の有様を見て、長い間、何の役にも立たず、時間の無駄とさえ思っていた友人との交流が、役立たないからこそ自分らしく豊かな人生に一番大切であると了解され、互いに我知らず友人であることが有難く思われたから。